

区議会レポート

77号



葛飾区議会議員

かわごえ誠一

本号の内容

表面：区議会第三回定例会など

裏面：緊急タウンミーティング報告

2021年9月6日発行

《発行》

かつしか区民連合

【区議会控室】 〒124-0012

東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代)

fax 03-3697-0137

令和3年葛飾区議会第三回定例会開会

◆令和3年葛飾区議会第三回定例会が9月7日（火）から10月4日（月）までの28日間の会期で開かれます。

◆今定例会では新型コロナウイルス感染症対策経費や、ひとり親家庭自立支援経費の他、柴又の川甚跡地の活用の検討のための観光推進事業経費など、第五次補正予算

48億19百万円が計上されました。また、概ね今後4年間に区が取り組む前期実施計画案が報告されます。合わせて決算審査特別委員会が設置され、令和二年度の葛飾区の決算が審査されます。今任期中最後の定例会となります。四年間の総括としても含め取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症対策について

■新型コロナウイルスワクチン接種状況について■

◆葛飾区のワクチン接種率（8月29日時点）

・高齢者（65歳以上）一回目 85.72%・二回目 83.78%

・一般（12～64歳）一回目 37.31%・二回目 23.30%

・合計一回目 50.79%／二回目 40.14%

◆妊婦のワクチン集団接種優先予約を実施

◆児童・生徒向けワクチン集団接種予約を開始
（小6～中1・中2～中3各1000枠）

■小・中学校2学期始業について■

◆子どもの感染増などの報道があり、夏休み終了前に教育委員会としての方向性を示すように求めてきました。感染症対策の徹底や、休校した場合の影響（働くご家庭への影響など）も含め検討をした上で通常通りの始業としたとのことです。コロナへの不安で休む子どもへは欠席扱いにせず、出席停止とすることも確認しました。

■熱がある、咳が出るなど不安の時の相談窓口■

◆かつしか新型コロナ受診相談窓口 03-3602-1376

◆東京都発熱相談センター 03-5320-4592

葛飾区議会・区長選挙について

◆葛飾区選挙管理委員会から、任期満了に伴う葛飾区議会挙（任期11月12日）及び区長選挙（任期12月18日）の概要が発表されました。去る9月1日には区議選への説明会がテクノプラザ大ホールで開かれ、63陣営が参加したとのことです。

◆葛飾区の将来を決める選挙です。一人でも多くの方に関心を持っていただきたいと思います。

◆定数：区議会議員40人 ◆区長：1人

◆告示日：令和3年10月31日（日）

◆投票日：令和3年11月7日（日）

◆開票日：令和3年11月8日（月）

◆期日前投票：11月1日（月）～6日（土）

■かわごえ誠一連絡先■

〒124-0012 葛飾区立石8-47-18

携帯電話 090-2932-7315

e-mail：info@kawagoeseiichi.com

かわごえ誠一オフィシャルサイト

www.kawagoeseiichi.com

日々の活動はFacebookをご覧ください。

◆かわごえ誠一プロフィール◆

●昭和38年3月川崎市生まれ ●東海大学第二工学部建設工学科卒業
●立石在住32年 ●防災士 ●保育園/学童保育クラブ父母会、小・中学校PTA連合会、おやじの会、図書館友の会、子育てネットワーク、保田しおさい学校、三番瀬保全活動などに携わる。●元東京工業大学附属科学技術高校非常勤講師 ●本田消防団第四分団員 ●葛飾区ボッチャ協会会長 ●元都議会議員伊藤まさき秘書を経て平成25年区議会議員選挙で初当選・平成29年二期目当選 ●区議会所属：文教委員会・副委員長／地域活性化・区民サービス向上対策特別委員会／広報委員会

◆緊急タウンミーティング報告◆ ～子どもたちの声にならない SOS～

かわごえ誠一 緊急タウンミーティング

夏休みが終わるのが心配な
子どもたち・保護者の皆さんへ



オンラインタウンミーティングの一場面

◆8月27日（金）の夜は緊急タウンミーティング「夏休みが終わるのが心配な子どもたち・保護者のみなさんへ」を開催しました。始業式の9月1日は子どもの自殺が増えると言われていますが、少しでも子どもの命を守りたい、一人でも子どもに差し伸べる手を増やしたいと企画しました。

■子どもとともに親も支える必要がある

◆冒頭、かわごえからは自分の子どもの不登校の経験から、親の立場の悩み、不登校の親同士のピアサポートの大切さについて話させていただきました。保田PTAや子どもの不登校の経験から、親として不登校を受入れる葛藤や、相談できない孤立感などがあることを実感しています。その中で救われたのは、同じ立場の親同士のピアサポートや、信頼できる支援者との情報交換でした。親を支えることで、心にゆとりができ、子どもへの対応の余裕ができると感じています。合わせて、文科省「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」から子どもの心に寄る添うためのTALKの原則を紹介しました。

●TALKの原則

※文科省「教師が知っておきたい 子どもの自殺予防」から

- (1) T e l l （言葉に出して心配していることを伝える）
- (2) A s k （「死にたい」という気持ちについて率直に尋ねる）
- (3) L i s t e n （絶望的な気持ちを傾聴する）
- (4) K e e p s a f e （安全を確保する）

■子どもたちの声にならない SOS を受け止める

◆シンガーソングライターの悠々ホルンさんから、子どもたちの声にならない SOS ～夏休み明け直前の今、伝えたいこと～とのテーマで講演をしていただきました。以下、概要の一部を記載いたします。

「追い詰められた子どもは簡単に逃げられない。十代の頃自殺を図ったことがあるが、誰かに相談しようと思ったこともなかった。おとなが考える以上に悩みを打ち明けること、助けを求めることは難しい。」

「保護者も仕事や家事で大変かもしれないが“うちの子は心配ないだろう？”と思わず、子どもの命に関することだから、少しの時間だけでも話を聞いてほしい。平気そうに見えて深刻な状態もある。頭ごなしに怒らないで安心感を与えてほしい。子どもの命を守るために休ませることが大事な選択肢だ。」

「今から“休みたい”と言ったらどんな反応を示すか事前に伝えておくことが大切だ。学校へ行きしぶり始めたら、親としても慌て、焦りが出る。あらかじめ心の準備、判断の準備をしておくといい。準備をすることは保護者の安心としても大事なことだ。」

「行きしぶる子への対応は、理由を聞いても答えられない場合は無理に問い詰めない。心配している気持ちを伝えるなどが大切。」

「また、家族だけで抱え込まないこと。家族が抱えている不安やストレスが子どもに伝わる。保護者に求められるのは“学校にいかせる”のではなく“安心して命、心と体を休める居場所”の確保だ。」

■困難を抱えた子ども・若者を支えるネットワーク

◆次に、かつしか子ども・若者応援ネットワークの世話人の力石さんから活動の紹介をしていただきました。

「2011年に個々に活動をしていた不登校支援やSCなどの子ども・若者支援団体・関係者に呼びかけ、支援者同士顔の見える関係を作ってきた。現在19団体でネットワークを作っている。子ども・若者ビジョンに掲げられた地域協議会を理想にしたネットワークを目指して活動をしてきた。それぞれの得意分野を生かしながら、子どもや若者の支援につなげている。現在、区との連携事業として、年に4回、不登校の保護者の情報交換“親カフェ”や区民大学を開催している。」

■不登校の子どもを支える総合教育センター

◆最後に学校教育支援担当課の大川課長から「不登校の子どもを支えるために～困っていたらみんなで支えよう」とのテーマで総合教育センターの不登校支援について報告していただきました。

「葛飾区総合教育センターは特別支援教育、不登校・いじめ、日本語指導の3つの事業を受け持っている。不登校はどの子にも起こり得ることだ。不登校の要因は身体的（疾患など）・学校の環境・生活リズム・家庭環境それぞれ背景・要因として複雑に絡み合っていて、取り巻く環境によってどの子にも起こる。不登校をみんなで支えるために学校の中の支援者・教育センター内の支援者・地域の支援者などが連携をすすめている。身近な支援者に気軽に相談してほしい。」

■今日死なない理由を見つけて！

◆今回のタウンミーティングのまとめに、悠々ホルンさんからメッセージをいただきました。

「学校に行っても、行かなくても根本的な解決は難しい。解決に何年もかかることがある。ただ、今、命を落とすことがなければ先の未来で楽に生きられる可能性もある。今日死なない理由が絶対的に必要だ。今日だけでも命を落とさない理由を見つけてほしい。子どもと関わりがある人が今日死なない理由になってほしい。」

◆相談窓口を作ったからといって子どもがすぐに相談できるものではありません。普段からの子どもとの信頼関係作や、ネットワークづくりが大切です。ちょっとした声かけや、日々の繋がり度で一人一人が「死なない理由」になれるように取り組んでかなければならないと感じました。



オンラインタウンミーティングの一場面